

共創機構による社会との共創の「場」づくり

～大阪大学と三井不動産（EXPOCITY）の連携協定～



夢はバラ色

小川 哲生*

Partnership agreement signed between Osaka University and Mitsui Fudosan Co., Ltd
toward co-creation projects at EXPOCITY, Suita, Osaka

Key Words : Partnership agreement, co-creation, Osaka Univ., Mitsui Fudosan, EXPOCITY

1. 共創機構の目指すもの

大阪大学は、大阪の政財界や市民からの援助と強い熱意によって、大阪帝国大学として1931年に創設されました。「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、社会と常につながりながら、教育、研究、社会貢献活動を推進してきました。

大阪大学は、さらに社会と大学のそれぞれが有する「知」「人材」「資金」とを好循環させながら社会とともに発展するため、学内外をつなぐ統括組織として「共創機構」を2018年1月に立ち上げました。

「共創 (Co-creation)」とは、複雑な社会課題の解決に向けて、多様なステークホルダーと、課題探索段階から、お互いの「知と力」を併せて協働することです (図1)。

大阪大学は「共創」の対象を、国内外の企業にとどまらず、国・自治体や経済団体、NPOや市民、国際機関や他大学など、社会全体に門戸を広げていき、社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学を目指しています (図2)。

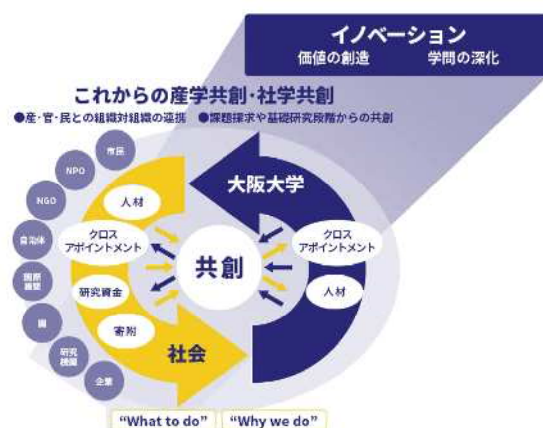


図1 共創 (Co-creation) の概念図

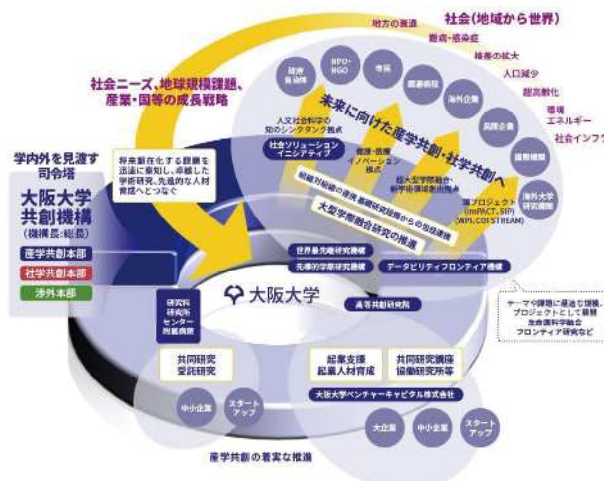


図2 共創機構の活動概略図



* Tetsuo OGAWA

1962年1月生まれ
東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻修了
現在、大阪大学 理事・副学長
工学博士 (東京大学)
凝縮系の理論物理学
TEL : 06-6879-4016
FAX : 06-6879-7007
E-mail : ogawa@acty.phys.sci.osaka-u.ac.jp

2. 連携協定締結の意義

今回ご紹介する、三井不動産株式会社との連携協定の締結は、EXPOCITY という、様々な「共創」を実践できる「場」を得たという意味で大変意義があると考えています。

ここで簡単に、三井不動産株式会社、EXPOCITY について説明いたします。三井不動産は、「Growing

Together」というコンセプトのもと、地域に根ざし、街とともに成長していく商業空間の実現を目指し、商業施設事業を推進している企業です。EXPOCITY（大阪府吹田市）は三井不動産が運営する『遊ぶ、学ぶ、見つける』楽しさをひとつに！』をテーマに、「ららぽーと」と8つのエンターテインメント施設からなる大型複合施設であり、2015年11月に開業しました。

大阪大学と三井不動産は、EXPOCITYにおいて、大阪大学の研究者が、教育・研究・共創活動を行うことで、EXPOCITYに『学ぶ』楽しさを感じられる空間を創出して、地域社会に貢献することを目的に、連携協定を2018年3月に締結しました（図3）。

大阪大学が地域の発展・活性化を目指して、不動産会社と連携協定を締結するのは初めてのことです。この連携によって、知の集団である大阪大学と「まちづくり」を推進する三井不動産は、両者の強みを生かして、人材育成事業、実証実験の実施、サイエンスカフェの開催など幅広い分野で共創し、大阪北摂地域の発展・活性化を図っていくこととしました。以下に、今回の連携協定で連携するとした、3分野の内容について、具体的に説明いたします。



図3 大阪大学と三井不動産との連携協定締結の様子（2018年3月16日）

3. 連携協定による取組みの一例

3-1. 人材育成・教育

人材育成・教育の分野では、実社会の課題や事例を素材としたプロジェクト型（Project Based Learning, PBL）授業の場としてEXPOCITYを活用して、学生が問題解決に向けた思考の進め方やスキルを実践的かつ総合的に『学ぶ』機会を拡大することを目指しています。

EXPOCITYを舞台に社会と知の統合の担い手を育成

現在、既にスタートしているのは、社会と知の統合の担い手を養成する大学院の特別プログラム「超域イノベーション博士課程プログラム」での活用です。同プログラムでは、実社会に踏み込んで新たな課題を発見して、イノベーションに向けた斬新なプランと知の関わり方を描き出すことができる新たなタイプの人材育成を目指しており、そのような人材像に向けて、EXPOCITYなどを舞台にPBL型授業が様々に行われています（図4）。



図4 EXPOCITYでのPBL型授業の様子。EXPOCITYは阪大生にとって新たな学びの場となる。

○短期留学生のEXPOCITYでの就業体験プログラム

カルフォルニア大学（UC）等の学生を対象として、大阪大学の短期留学生として、英語を楽しみながら学ぶ、体験型英語教育施設「Osaka English Village」でのインターンシッププログラムを今年度に試行しました（図5）。このプログラムは、夏休み期間中の8週間で体験型英語教育のインターンシップ（実働時間は週20時間）に従事してもらうものです。



図5 Osaka English Villageでインターンシップに取り組んでいる短期留学生

大阪大学国際教育交流センターと Osaka English Village の連携により実現しました。

3-2. 調査・研究

調査・研究の分野では、EXPOCITY を研究対象、実証実験、研究発表の場として活用することで、イノベティブな研究を推進するとともに、EXPOCITY 来場者の『学ぶ』楽しさを刺激することを目指しています。

○仕掛学の実証実験

松村真宏教授（大学院経済学研究科）は、バスケットゴールの付いたゴミ箱だと人はごみをゴミ箱に捨てたくなる、口の開いたライオンの像を見ると手を入れたくなるなど、「人々がつい行動したくなる」ように仕向ける仕掛けを設置して、人々の行動分析を研究しています（図6）。現在、学生の授業を通じて、EXPOCITY 向けの仕掛けを来場者に試してもらうことを通じて、来場者に学ぶ楽しさを提供しながら、学生の教育、仕掛学の研究に活かす取り組みを続けています。



図6 EXPOCITY で実施した仕掛学の実証実験の様子

○ロボットやアンドロイドによる実証実験

石黒浩教授（大学院基礎工学研究科）らは、EXPOCITY にロボットやアンドロイドを設置して、来場者とのコミュニケーションを観察することで、日常的空間にアンドロイドを設置した場合、人はどのように対象を認識し、どのような会話をするのかなどの研究を行うことを予定しています。その他、株式会社海遊館が運営するミュージアム「NIFREL（ニフレル）」や Osaka English Village での活動も予定しています。

○EXPOCITY 来場者の人流解析

東野輝夫教授、山口弘純准教授（大学院情報科学研究科）らは、大阪の広大な地下街を舞台にして人がどのように行動するのかを研究しています。今回、EXPOCITY 来場者がどのように館内を移動しているのかを、個人情報を特定することなく、測る装置を開発しました。現在、産学共創本部の支援なども得て、EXPOCITY での実証実験に向け、準備を進めている状況です。

○自宅でショッピング体験するための実証実験

村田正幸教授、荒川伸一准教授（大学院情報科学研究科）は、脳や生体の情報処理機構に学び、ネットワーク技術を活用した故障に強く持続的進화가可能な情報処理システムに関する研究に取り組んでいます。その成果を応用して、自宅にいる利用者が、代理人であるロボットを遠隔操作することで、快適なショッピング体験ができる未来を目指し、EXPOCITY での実証実験を開始しています。



図7 EXPOCITY での実証実験（ロボット遠隔操作）の様子

3-3. 共創事業（大学イベント等）

EXPOCITY での大学イベント、サイエンスカフェなどの開催を通じ、地域住民や企業と大学が双方向に話し合えるオープンコミュニティを構築し、EXPOCITY 来場者と共に『学ぶ』楽しさを感じられる空間を創出します。

市民との対話については、大阪大学は21世紀懐徳堂の社学連携活動や中之島地区での公開講座、ラボカフェなど様々なアウトリーチ活動を展開するとともに、2017年8月に社学共創本部を設置して組織的な社学共創活動を展開し、実績を積んでいます。

これまでの経験を踏まえて、EXPOCITYに適したイベントを現在、複数検討しています。産学共創活動についても、調査・研究活動の結果、様々な形態で活発化していくと考えています。

4. 大阪大学共創フェスティバル

大阪大学では、共創機構の発足を記念して、2018年11月6日と17日に、EXPOCITYやその周辺で「大阪大学共創フェスティバル」を開催いたします。共創フェスティバルは、「大阪大学シンポジウム（11月6日開催）」と、「大阪大学共創DAY@EXPOCITY（11月17日開催）」の2つのイベントで構成されています。いずれも無料です。企業、自治体などの関係者とともに一般市民の方にも是非ご参加いただければと考えています。詳しくは、共創機構ホームページでご確認願います（図8）。



図8 共創機構ホームページ
(<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/kyoso/>)
共創機構の活動内容を随時更新していきます。

○大阪大学シンポジウム「産官学民で共に創る未来の社会」

11月6日（火）午後1時から、ホテル阪急エキスポパークにて開催いたします。基調講演は、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）初代チェアマンで日本サッカー協会キャプテン（相談役）の川淵三郎さんに登壇いただき、「夢があるから強くなる」と題して講演いただきます。川淵さんは、Jリーグが今年、25周年を迎えるにあたり、「未来共創『Jリーグをつかおう！』ワークショップ」を開催するなど、「共創」への想いを共有していることから、依頼をして、快諾いただきました。基調講演の後、共創機構に関係する研究者がこれまでの成果や今後の展望などをアピールします。（図9）。



図9 大阪大学シンポジウムのチラシ（11月6日）

○大阪大学共創DAY@EXPOCITY「大阪大学とあそぼう」

11月17日（土）ららぽーとEXPOCITYの各所にブースを多数設置して、様々な研究業績、研究する楽しみ、学ぶ楽しみなどを教職員や大学院生が分かりやすく紹介します。親子連れ、行楽客などなたでも楽しめるよう工夫しようと考えています。子



図10 大阪大学共創DAY@EXPOCITY（11月17日）

どもさんが科学に目覚める機会につながるかもしれません。午前11時～午後5時。申込み不要で、どなたでもご参加いただけます(図10)。

5. おわりにーさらなる共創に向けて

本稿では、共創機構の目指すもの、三井不動産との連携協定、大阪大学共創フェスティバルの概要について、説明しました。

今回の三井不動産との連携協定では、三井不動産の多大なご協力を得て、EXPOCITYが共創の「場」として花開きつつあります。共創機構では、今後も三井不動産との連携をより密にして、大阪北摂地域の発展・活性化のため、大阪府や周辺の自治体、研

究機関、関係企業、一般市民も巻き込んで、さらに大規模な共創の「場」を創出できればと考えています。

大阪大学は、社会との連携を積極的に推進し、地域社会と「知と力」を合わせて、社会変革に貢献する世界屈指のイノベティブな大学を目指していきますので、関係者の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謝辞：本稿の資料収集にあたっては、大阪大学共創推進部社会学共創課の花岡宏亮氏にお世話になりました。心より感謝いたします。

